

平成 25 年度 第 2 回生物多様性推進部会会議録（要旨）

【開催日時】 平成 26 年 2 月 17 日（月） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 50 分

【開催場所】 西宮市職員会館 大会議室

【出席者】 < 事業者 > NPO 法人こども環境活動支援協会 事務局長 小川 雅由 氏

< 専門家 > 兵庫県立大学 教授 服部 保 氏

関西学院大学 教授 佐山 浩 氏

西宮自然保護協会 会長 三宅 隆三 氏

< 事務局 > 環境局長 他 10 名

【主な内容】

< 報告事項 >

1. 広田山公園コバノミツバツツジ保全活動勉強会の開催結果について
2. コバノミツバツツジの育苗状況について
3. 西宮市生物多様性地域連携保全活動計画検討委員会の進捗状況について
4. 「生物多様性にしのみや戦略」平成 30 年度までの計画及び展望について

< 検討事項 >

1. 広田山公園コバノミツバツツジ再生管理計画（案）について
2. 「市民自然調査ホームページの活用」と「調査体制の構築」について

報告事項

(1) 広田山公園コバノミツバツツジ保全活動勉強会の開催結果について（事務局説明）

(2) コバノミツバツツジ育苗状況について（事務局説明）

（質疑応答）

- ・ 苗で背の高いものと低いものとがあるのはなぜか。（委員）

広田山公園の中で芽生えているものを採ってきているので、大小さまざまな苗となっている。（事務局）

成長度合いはわからないか。（委員）

成長はしていない。そのままの状態だ。（事務局）

苗は来年ぐらいまでに植えられるとよいのだが、生育度は低いようなので、この苗を来年植えるのは難しいかも知れない。（委員）

野菜の苗だったら暖かくしていたら成長度合いはあるようだが。（委員）

花工房にしている苗は、ビニールハウスの中にあるのだが、コバノミツバツツジの苗は、暖かくしているとよく成長するといった様子ではないようだ。（事務局）

植えるまでに 30cm～50cm ぐらいの大きさになったものを植えないと乾燥に耐えることができない。挿し木をするか、次の手を考えないといけないだろう。植えないと市民の意識も高まらないだろう。何とか植えられまでの大きさに育てて欲しい。西宮市の中で造成などやっているところはないか。あれば、そういうところから取って来るといこともできるのだが…。来年はあまりやりたくないが挿し木という手も考えなければならぬかもしれない。（委員）

(3) 西宮市生物多様性地域連携保全活動計画検討委員会の進捗状況について（事務局説明）

- ・ 都市型里山の考え方について、西宮ならではの特徴ある里山について議論をしているところだ。西宮市の場合は、キャンプ場が計画エリア内にあることから、一般的な里山ではなく、キャンプ場を有しているといった特徴を前面に出している。野外活動・自然体験の拠点を持っているという特徴を有する里山ということを強調して、都市型里山としたいと考えている。（委員）

西宮方式の里山管理を進めていけば面白いと思う。先日開催された北摂里山大学での講義では、検討委員会関係者にこの甲山での計画について話をしてもらったが、出席者などからは、非常に評価が高かった。（委員）

- ・ 甲山グリーンエリアの湿原の保全は何か進んでいるのか。(委員)

甲山自然環境センターでのボランティア養成講座の中で、笹を刈るなどして、順調に湿原の機能が回復してきている。もう数年、事業を続ければ、湿原独特の動植物が出現するのではないかと期待している。(事務局)

阪神北、阪神南県民局が一緒になる。県民局では里山や湿原の保全のためにお金をかけているので、西宮市もその流れに乗っていけばよい。(委員)

最近、一時期見られなかったハッチョウトンボを見かけることができるようになってきている。落ち葉を取る、周辺の木を切ったことで水が復活したので、その影響が大きい。(委員)

甲山グリーンエリアにオオムラサキはいるのか。(委員)

いる。今度発行する西宮自然保護協会の雑誌に確認報告が出ている。(委員)

オオムラサキは皆が見て感動する生きものなのでよい傾向だ。(委員)

検討事項

- (1) 広田山公園コバノミツバツツジ再生管理計画(案)について
 - ・ 専門家が調べた内容が、保全活動を進めていく人に情報がきちんと伝わっていく流れが欲しいところだ。先日、協会の職員が公園で環境学習を行った際に、公園内の落ち葉が清掃ですっきり取り除かれていた。生物多様性の観点からすると、落ち葉だまりのところは、色々な生き物が生息するよい環境となっている。公園内での清掃、コバノミツバツツジの保全、多様な生き物の生息環境、バランスのとれた保全活動ができるように心がけて。(委員)
 - ・ 照葉樹林自体は神社側がもう少し手入れをした方がいい。樹林内のヒノキやスギは伐採した方がよい。照葉樹林のゾーンが増えたという事は、コバノミツバツツジが減るという事になるので、コバノミツバツツジの保全ゾーンについては徹底的に常緑樹を伐っていくよう徹底した方がよい。常緑樹と落葉樹が混在すると落葉樹は維持できない。市街地の中にある公園なので、住宅地との境界線部分の樹木対策に配慮もしていかなければならない。住宅地の中にある森のあり方は難しい。落ち葉のこと、台風時の倒木対策、様々な配慮が必要になる。(委員)
- (2) 「市民自然調査ホームページの活用」と「調査体制の構築」について
 - ・ 自然調査の参加者の中で小学生・中学生・高校生などあるが、学校のクラブ活動で実施されたのか、総合学習の中で実施したか、参加の方法はどういった形なのか。(委員)

中学校の報告については、10年前の自然調査の際にも中学校の夏休みの宿題で参加してもらっていたのだが、今回も同様、中学1年生を中心に取り組んでいただき報告いただいたもの。小学生については、主にEWC事業を通して、個人参加もあるが、学校の先生が授業の中で取り上げて、クラス単位で報告をいただいたものがある。(事務局)

インターネットで報告した人は、学生が多いのか、社会人が多いのか。(委員)

内訳となる資料がないので、詳細はわからないが、西宮市の場合は、地域で組織されているエココミュニティ会議のメンバーの方や環境保全活動をされている団体の方の報告が主となっており、社会人の方の報告がメインと思われる。(事務局)
 - ・ 情報の公開とあるが、希少種の情報の取り扱いはどうなっているのか。(委員)

基本的に市民から情報提供いただいたデータについては、公開をする予定にしているが、ある程度のルールづくりを考えていきたい。例えば、保全団体に所属する人がグループごとに参加し、調査した内容などもグループで情報共有できるように、個別の報告は、全体の報告とは別に地図が表示されるようなくみを考えている。(事務局)

調査結果については、このシステムがGISを組み込んだものなので、生きものを見つけた地点を地図から入力してもらい、点で情報をもろう形になる。情報公開に関しては、面での情報提供、つまり、町単位ごと、河川についてはあらかじめ設定したエリアでの提供となる。なお、報告してもらった内容は緯度・経度の情報が入ったものであるため、公開する情報とは別に全体地図に落とし込み、行政利用に役立

てる形となるようしくみを考案しているところだ。環境省で進めている GIS と地方自治体で進めている GIS とでは構造が異なっている。今回は西宮市版の GIS を利用したしくみの構築となる。(委員)

- ・ 写真情報を市民から募るので、自然保護協会さんにもご協力お願いしたいと考えている。3637種の写真が集まり、西宮版の生きもの図鑑が出来れば良いと考える。(委員)
- ・ 得られているデータは、どこかでまとめて保存されるのか。それとも、団体ごとに分散して管理されるのか。(委員)

情報については、西宮市の情報システム課が管理するサーバに落とし込まれるので、最終そこで集約され、管理されることになる。貝類館でも貝の調査結果のマップを作っているがアナログとなるので、このシステムができれば、すべてこちらに情報を流して一括管理してもらおうと考えている。(委員)

データについては、こういう情報は個々それぞれの団体が持っている、といった事が公にされるのか。(委員)

各グループで調査した内容はグループ内での情報公開となる。入力した情報はホームのシステムで合体され、点情報が蓄積される。が、一般の方への情報公開については、面での情報公開となる。グループで参加している人は、グループ内で情報共有をしながら自然調査を楽しめることになる。そういうしくみが出来ないか、現在、調整を図っているところだ。(委員)

- ・ 予算は確保できるのか。(委員)

3月の議会で承認されるので確保できる。こういった将来を見据えての事業については、今、急にいるものではないので予算がつきにくい。今回、市民自然調査で報告システムを作ったので、これを単年度で終わらせるのはもったいないということで何とか予算をつけて、システム開発することになったものだ。(事務局)

次回推進部会の日程は、6月から7月頃を予定。後日調整し、連絡する。